

## サーチライト With Pastor Jon 創世記 9 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

---

**「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7**

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

### 神はノアとその息子たちを祝福して (創世記 9:1)

ノアが神を祝福した後 (創世記 8:20)、神がノアを祝福しました。

8 章にはノアがどのように神を祝福したかが書かれています。

ノアが箱舟を出た後、自分の家を建てる前に、水害保険請求の手続きをする前に、何よりも先にまず行ったのは、祭壇を築き、いけにえを献げることでした。

その芳ばしい香りが天の父に届き、

**主は、その芳ばしい香りがかかれた。そして、心の中で主はこう言われた。**

**「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらさしめない。**

**人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。**

**わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。」 (創世記 8:21)**

主が言ったこのことばに、私はとても驚きました。

「このような洪水によって、同じように地を滅ぼしてしまうことはない。

なぜなら、人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。

人とはそういうものだから、だからもう、洪水によって人を裁くことはしない。

人の心は悪で満ちているから、全てを滅ぼすことはしない。」

ちょっと待って！

その理由に、私は衝撃を受けたのです。

この 8:21 と同じことばが、6 章では、神が洪水を起こした理由でしたよ。

当初はそれが大問題でしたから。

確認しましょう。

## 6 章では

主は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。

そして主は言われた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。」(創世記 6:5-7)

「人間の思いや心に凶ることがみな、いつも悪いことに傾くから、彼らを滅ぼそう。」

## 8 章では

「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらさしめない。

人の心が思い凶ることは、幼いときから悪であるからだ。

わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。」(創世記 8:21)

「わたしには、人の心も思いも分かっている。それらはいつも悪に満ちている。

従って、もう、彼らをこのようには裁かない。」

矛盾しているようにも聞こえますね。

6 章では裁きの理由であることが、8 章では同じことばで、それだから裁かないと。

「人の心が思い凶ることは、みな悪であるから」という同じことば。

「だから、地の面から消し去ろう。」(創世記 6:7)

「だから、打ち滅ぼすことは決してしない。」(創世記 8:21)

矛盾や疑問が生じましたか？ これは一体どういうことでしょうか。

一方では「それを理由に裁く」と言い、ここでは「そうだから裁かない」

神は気まぐれ？ 矛盾したお方？

いいえ。説明しましょう。

ここは、とても重要な箇所です。

神は、世が罪の悪臭、肉欲の臭いに満ちているのを見て、人間がものすごい悪臭を放っていることを気にかけたのです。

6 章で、神は人を見て言いましたね。

「罪がひどい悪臭を放っている。その邪悪と不法は変わることなく繰り返され、永久に続いていく。」

だから、「何とかしなければ。」「滅ぼさなければ。」

悪臭がひどいから。

思い起こせば、あれは 1982 年 1 月 28 日。昨日の事のように覚えています。

いや、違う。1983 年 1 月 28 日だ。

ピーターが 6 歳、ジェシーが 4 歳、クリスティーが 2 歳。

私たちはよくサーティーワン・アイスクリームに行っていて、その日も、私が子供たちの分も選んで注文しました。支払うのは私だから。

みんな同じ、ピーナツバターチョコレート。

みんなで座って食べていたら、2歳のクリスティーが、「パパ！」「パパ！ おトイレ！」

そしたらピーターが「やったー!!!」

だってその頃、家族一丸となって、クリスティーのトイレトレーニングをしていたから。

当時、ウチは父子家庭で、私はオムツの事とか、あまりうまくできなくて。

クリスティーのオムツが外れることを、みんな心待ちにしていたのです。

特に私は、パンパースやおしり拭きなどから早く解放されたくて。

だから、クリスティーが初めて自分から、「パパ！ おトイレ！」と言ったのはスゴイことで、ピーターは

「やったー!!!」と言い、私は「エライぞ!!」と言って、みんなでトイレに行って、クリスティーを座るべき場所に座らせ、そして、彼女は、自分の仕事を見事にやり遂げました！

その時、私は勝利の笑みに満ち、その日は、記念すべき日になったのです。

当時、クリスティーは末っ子でまだ2歳。

私は一人で育てていました。

それは新しい時代の到来！ 自由の到来！ さよならオムツ!!

それから帰宅して部屋にいたら、クリスティーが「おやすみ」を言いに来て…、近づくにつれて否定しようのない悪臭が…

“香り”は彼女の背中側の中央辺りから放たれていて、私にも分かりましたよ、何が起こっているか。それで、匂いを嗅いで…

もちろん、これは厄介なことではあっても、でも、大した問題ではありませんよ。

原因はこってりしたピーナッツバターチョコレートアイスクリームだってことも、中のモノが出てしまったってことも。

それで彼女は…分かるでしょ？

だから急いで、「クリスティー、大丈夫だよ！ ちょっと失敗したとしても大勝利がある!! だから大丈夫だ！ いいんだよ！」

そんな風に話しながらおしりをキレイにしていたら、まだ終わっていない様子だったので、もう一度トイレに座らせて、私は部屋に戻りました。

クリスティーはトイレで自分で用を足していて、私はそんな娘を誇りに思いながら新聞を読んでいた。

実話ですよ、これ。

すると突然、「パパ——っ!!」「パパ——っ!!!」娘の叫び声。

新聞を投げ出し、トイレに走り込んだら、クリスティーが便器に落ち込んでいた！

V字形になって。両手、両足が上に上がって。どっぷり、水に浸かっていました。

私は信じられなくて…

だから…水を流してしまった。ジャー—！っと。ああ…、私のクリスティー…

それでも。です。

失敗やトイレにはまることがあっても、困難があっても、実際は、既に大勝利を手に入れているのです。

あの夜のアイスクリーム屋さんでの大勝利。

そこには希望がある!!

このみことばも同じです。

以前は、悪臭以外の何ものでもなかった人間。

いつも罪を犯し、反逆し、悪に満ちていた人間。

それで神は洪水をもたらし、水は山々を覆いましたが、水は人を清めましたか？

いいえ。

どれだけ洪水が起きても、どんなに社会が洪水によって完璧に洗い流されたとしても、問題は内面にあるので、外側を流れる洪水は内面の罪を洗うことはできないのです。

それで何が起きたかという、今見ている箇所です。

悪に満ちた人の本質は変わらない。

*人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。*

*わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。」(創世記 8:21)*

その理由はとても重要です。

「なぜなら、なだめの香りが立ち上って来たからだ。

たとえ、まだ罪や悪にもがいていても、実際にわたしにいけにえが献げられ、立ち上るなだめの香りがわたしを喜ばせたのだ。

全焼のいけにえ、それが全てを変えた。

その (the) いけにえ。全焼のいけにえの、なだめの香りが。」

聖書を学んでいる人は、もう分かっていますね。

旧約聖書に書かれているいけにえ、ささげ物は、いつもイエス・キリストを示します。

私の罪のために十字架で無残に殺され、究極のなだめの供え物となった神の子羊イエス・キリストのことで

す。十字架のみわざの香りは究極の全焼のささげ物であり、全てのささげ物の成就を予表しているのです。

キリストのなだめの香りが、人が犯す全ての罪の悪臭を処理し、無臭にするのです。

6章では何のささげ物も献げられず、人はただ悪を行い続けていました。

しかし8章では、ささげ物が献げられ、21節にあるように、神はそのなだめの香りを嗅いで、それを「愛おしい」と言いました。

なぜならその香りは、その後の全ての人間の罪のための、イエスの犠牲を示しているからです。

これがポイントです。

洪水が世を清めたのではなく、社会の問題を解決したのでもない。

神は、「洪水によって人が清くなったから、もう2度とそれで裁かない。」と言ったのではない。

全く違います。

あの日、神にそう言わせたのは全焼のいけにえであって、主はその香りを嗅ぎながら、「人間の心が思い図ることは、幼いときから悪だ。」

しかしここで、イエス・キリストを示すいけにえ、全焼のささげ物が献げられました。

私はそのことをとても嬉しく思います。

私もあなたも、人間の思いが悪に傾き、罪を犯す性質があるのは知っての通り。

けれども、ここに別の要素、私たちが神の激しい裁きから救うものがあるんですね。  
それは、イエス・キリストがなだめの供え物として、十字架にかかって下さったこと。  
ハレルヤ！

神はなだめの芳ばしい香りを嗅いで、

*「人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。」*

*わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。」* (創世記 8:21)  
すごい！ なんとこの祝福でしょう！

神はノアを祝福しました。(創世記 9:1)

ノアがささげ物を献げて神を祝福したから。

私たちが神に“献げ過ぎる”ということはありません。

賛美とか行いとか、何かを以って主を祝福しようとしても、何であれ、主に献げるとしても、献げ過ぎることは絶対にありません。

これは本当です。

皆さんも、殆どの方が知っているでしょう。

主に献げて主を祝福すると、惜しみない祝福が返って来ることを。

それは、神は、人に対して一切の借りを作るような方ではないから。

神は誰に対しても全く借りがありません。

私たちが神に献げると、神はとても喜んでそのままにしておかず、献げた以上の何倍もの祝福に変えて返して下さる。

これは、誰にでも全ての人に当てはまる霊的な原理であり、真実です。

歴史の中でもそうでした。

献げ過ぎるということはありません。

ということで 9 章。1-17 節

**1** 神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。

*「生めよ。増えよ。地に満ちよ。」*

**2** あなたがたへの恐れとおののきが、地のすべての獣、空のすべての鳥、地面を動くすべてのもの、海のすべての魚に起こる。

*あなたがたの手に、これらは委ねられたのだ。」*

**3** 生きて動いているものはみな、あなたがたの食物となる。

*緑の草と同じように、そのすべてのものを、今、あなたがたに与える。」*

**4** ただし肉は、そのいのちである血のあるままで食べてはならない。

**5** わたしは、あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の値を要求する。

*いかなる獣にも、それを要求する。」*

*また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。」*

**6** 人の血を流す者は、人によって血を流される。

*神は人を神のかたちとして造ったからである。」*

- 7 あなたがたは生めよ。増えよ。地に群がり、地に増えよ。」
- 8 神は、ノアと、彼とともにいる息子たちに仰せられた。
- 9 「見よ、わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。  
そして、あなたがたの後の子孫との間に。
- 10 また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に。鳥、家畜、それに、あなたがたとともにいるすべての地の獣、箱舟から出て来たすべてのものから、地のすべての生き物に至るまで。
- 11 わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。  
すべての肉なるものが、再び、大洪水の大水によって断ち切られることはない。  
大洪水が再び起こって地を滅ぼすようなことはない。」
- 12 さらに神は仰せられた。  
「わたしとあなたがたとの間に、また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に、代々にわたり永遠にわたしが与えるその契約のしるしは、これである。
- 13 わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。  
それが、わたしと地との間の契約のしるしである。
- 14 わたしが地の上に雲を起すとき、虹が雲の中に現れる。
- 15 そのとき、わたしは、わたしとあなたがたの間、すべての肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い起こす。  
大水は、再び、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水となることはない。
- 16 虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と、すべての生き物、地上のすべての肉なるものとの間の永遠の契約を思い起こそう。」
- 17 神はノアに仰せられた。  
「これが、わたしと、地上のすべての肉なるものとの間に、わたしが立てた契約のしるしである。」

神は、ノアと息子たち、その妻たちに、「地に満ちよ」という再スタートを与えました。

神は初め、エデンの園でアダムとエバにそう言いましたよね。

「生めよ。増えよ。」(創世記 1:28)

今、ノアと息子たち、妻たちは同じ言い方のことばを聞きました。

「生めよ。増えよ。」(創世記 9:1)

一つだけ違うのは、今回は楽園(パラダイス **paradise**) ではないということ。

アダムとエバは楽園で「生めよ。増えよ。」と言われました。

でも、ノアたちがいるのは、罪が入る前にアダムとエバがいたパラダイスではなく、かと言って、地獄(**perdition**) でもない。

天国(**heaven**) ではないが、地獄(**hell**) でもない。

アダムの時代のような良い世界ではないが、人間の罪で最悪になり得た世でもない。

どうして今、こんなことを言うのか。(※1997年)

それは、この事実を共に忘れないためです。

私たちが今いるこの世は、天国でもなければ地獄(**hell**) でもない。

それぞれの人生と重ねて考えてみても、全てが素晴らしいわけでも、順調なわけでもないでしょう。

だけど、受けるべき裁きのことを考えてみたら、ずっと良いはずです。

私たちが本来受けるはずのものは灼熱の地獄 (hell) だったのに、神は良いお方で、その憐みと優しさによって全てを私たちに与え、私たちはそれを楽しんでいます。

とは言っても、天国とはまた違っていますが。

天国では、全てが正しく完璧で、なんと主の栄光に満ちていることか！

その日はもうすぐです。それほど遠くはない。本当です。

心から神に感謝します。

神はノアに、言われました。

「ここは、罪が入り込む前のアダムの時のような素晴らしい世ではないが、悪くもない。」

「外に出て、生めよ。増えよ。地に満ちよ。わたしが共にいる。」

そして、よく聞いて下さい。

神はノアと契約を立てました。

聖書の中に何度も何度も出てくることば。

『あなたとの間に契約を立てる』

『契約』旧約聖書の中に何度も登場する『契約』

これは、旧約聖書の神学では、まさにカギとなる概念です。

『契約』は、神の口から主権者として宣言されるもので、それによって神は、人、家族、国家と直接的な関わりを持ち、責任を負うのです。

つづく

もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。

今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。(ガラテヤ 2:20)